

論説紙芝居国語 第0話

解説映像

知識という「目」



《教材の使い方と各回の流れの例》

①ナレーション付きの紙芝居国語

教材を手元に置き、ナレーションを耳で聞き、指で追いかけていきましょう。ピグマリオンでは言葉を一つ一つ学ぶことはありません。声を浴び、文章の全体像を把握する中で、言葉を少しづつ身につけていきましょう。

②中川先生のかみくだき解説

ご家庭で、わが子に対して実際にどのように語り掛ければいいのか。そのヒントになることでしょう。

③中川先生の概念解説

紙芝居の内容を、やや抽象的なレベルで解説します。今回の紙芝居を抽象的なレベルで理解できると、他の回の紙芝居との関係性を意識することができ、知識が自然に子どもの頭の中で体系化してゆきます。

④各種クイズ（字源語源クイズ 理解度確認クイズ 並べ替えクイズ）

出てきた漢字の語源を考えることを通じて漢字や言葉に興味を持ったり、紙芝居の並び替えを通じて文章の構成の仕方を身に着けたりします。音声読み上げ後、じっくり考えたい場合は映像を一時停止させて、お子様とやり取りをしてみてください。考えている間に答えが表示されないように、解答は映像には載せず、教材に記載しています。

⑤正解のないクイズ

このクイズの答えを親子が一緒にになって考えることを通じて、今回学んだ視点を活用して日常生活を見つめ直す親子の時間を持っていただきます。



参考元: pixabay <https://pixabay.com/ja/>

晴れた昼間、空を見上げると、細くて長い雲が何本か集まつたものを、見ることがあります。そんなとき、私たちは「あ、飛行機雲がのびているな。あの雲がある場所を、さっき飛行機が飛んで行ったんだな」と思います。もう飛行機はどこか遠くに飛んでいったので、飛行機は見えません。しかし、飛行機はたしかにそこにいたように思えます。私たちは、直接目に見えなくても、「なにかがそこにある」とたしかめることがあるのです。



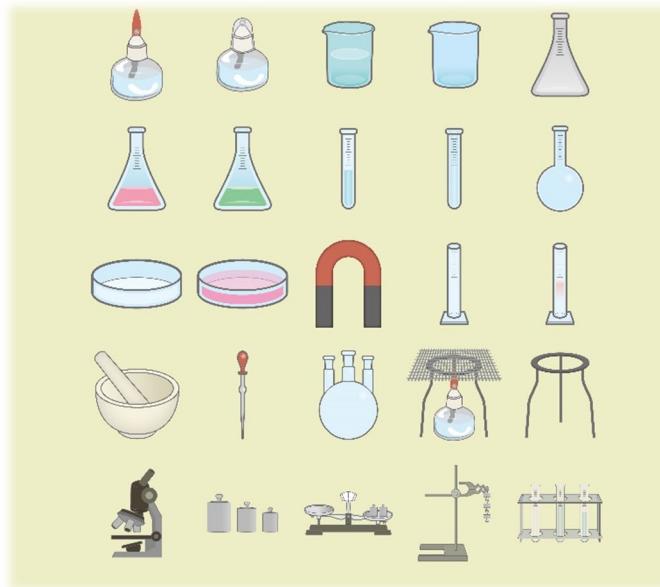
参考元: pixabay <https://pixabay.com/ja/>

飛行機雲ができる理由は次のとおりです。飛行機が出すはいきガスには、たくさんの水が入っています。水とは言っても、私たちがコップに入れて飲む水ではありません。コップの水を飲もうとしたときに、水がこぼれて服がぬれてしまうことがあります。服にしみこんだ水は、いつの間にか空気の中に飛んでいってしまい、服がかわきます。はいきガスの中の水とは、ぬれた服から空気の中に飛んでいくのと同じ「目に見えない水」(=水蒸気)です。



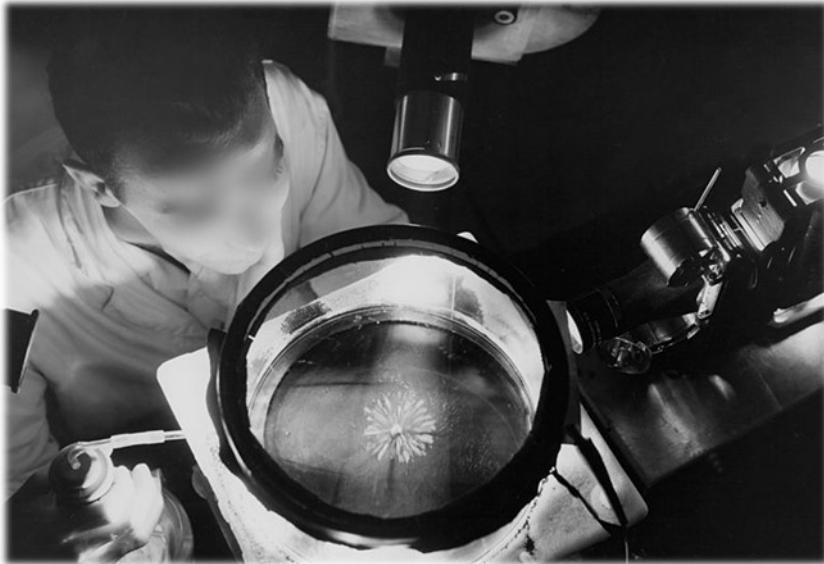
参考元: pixabay <https://pixabay.com/ja/>

飛行機は、とっても寒い空の中を飛んでいるので、この「目に見えない水」(=水蒸気)が、飛行機の外に出ると、すぐに「目に見える水」に変わります。ちょうど、夏に、空気の中の「目に見えない水」(=水蒸気)が冷たい缶(かん)ジュースの外側で「目に見える水」に変わり、水のつぶになると、同じです。この「目に見える水」の小さいつぶがたくさんできると、白い雲ができます。こうして、飛行機がとおるところだけに白い雲ができます。



参考元:illustAC <https://www.ac-illust.com/>

私たちは小学校の理科の時間に「飛行機は空高く、寒い所を飛んでいる」「はいきガスには、目に見えない水(=水蒸気)が入っている」ことを勉強します。この理科の知識が、私たちの「目」となって、本当は見えなかった飛行機が見えるようになります。理科の知識の「目」は、大学の先生たちが研究をするとき、とても大事になります。私たちのまわりの机やえんぴつや、私たちの体は全部、原子という小さなつぶでできています。その原子は、もっと小さなつぶでできています。これらのつぶを私たちは見ることができません。



※画像を一部加工しています
参考元: wikipedia <https://ja.wikipedia.org>

今から120年くらい前、これらのつぶを見るための機械が発明されました。箱の中に、見えない水(=水蒸気)を入れておくと、小さなつぶがその中を走ったときに、雲ができることが分かりました。上の写真を見てください。ポロニウムという金属から、アルファ粒子(りゅうし)という小さなつぶがいろんな方向に飛んでいくのが見えます。くりかえしますが、つぶが飛んでいくように見えるのは、理科の知識という「目」を私たちが持っているからです。



参考元: photoAC <https://www.photo-ac.com/>

いや、もしかしたら、私たちは、理科以外、たとえば社会科の知識の「目」も持っているのかもしれません。私たちは、お正月に千円のお年玉をもらつて、大喜びするとき、「このお年玉ぶくろの中にお金が入っている」と思っています。しかし、実際にあるのは「1000」という数字と野口英世(のぐちひでよ)の顔の絵がかかれた、ただの紙切れです。それでも「この中にお金がある」と思えるのは、「お店に行けば、この紙切れを素敵なおもちゃや、おいしいお菓子(おかし)とこうかんしてくれる」という知識の「目」を、私たちが持っているからです。



参考元: illustAC <https://www.ac-illust.com/>
photoAC <https://www.photo-ac.com/>

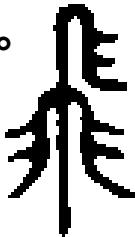
もしそうだとすると、使う知識がちがえば、ひとつのものをいろいろな方法で見ることができます。だから、私たちが知識を使って、なにかが「見えた」と思ったとき、「その見方だけが正しい」と考えないほうがよいです。千円札を見て、おもちゃ屋さんに並ぶプラレールやリカちゃん人形が頭にうかんだとしたら、それは千円札を正しく見たことになります。また、同じ千円札を見て、「どうやったら、こんなに細い線を並べて、人の顔をえがくことができるのだろう」と考えるのも、正しいことなのです。

字源語源クイズ



あの雲がある場所を、さっさと飛行機が飛んで行ったんだな。

「飛」という漢字は、昔、右のような形をしていました。
これは、何を表すでしょうか。



- ア 木の枝が風を受けて揺れている様子。
- イ 鳥が羽を広げて、空を飛んでいる様子。
- ウ 綿毛のついたタンポポの種が風に流されて飛んでいる様子。
- エ 鳥が羽を広げて、今から飛び立とうとしている様子。

字源語源クイズ



あの雲がある場所を、さっさと飛行機が飛んで行ったんだな。

「飛」という漢字は、昔、右のような形をしていました。
これは、何を表すでしょうか。



- ア 木の枝が風を受けて揺れている様子。
- イ 鳥が羽を広げて、空を飛んでいる様子。
- ウ 綿毛のついたタンポポの種が風に流されて飛んでいる様子。
- エ 鳥が羽を広げて、今から飛び立とうとしている様子。

正解は エ です

理解度確認クイズ

を持っていると、見えないはずの
ものが目の前にあるように思えてきます。

問：空欄に入る言葉は何ですか。

理解度確認クイズ

を持っていると、見えないはずの
ものが目の前にあるように思えてきます。

問：空欄に入る言葉は何ですか。

正解は 知識 です



晴れた昼間、空を見上げると、細くて長い雲が何本か集まつたものを、見ることがあります。そんなとき、私たちは「あ、飛行機雲がのびているな。あの雲がある場所を、さっき飛行機が飛んで行ったんだな」と思います。もう飛行機はどこか遠くに飛んでいったので、飛行機は見えません。しかし、飛行機はたしかにそこにいたように思えます。私たちは、直接目に見えなくても、「なにかがそこにある」とたしかめることがあるのです。

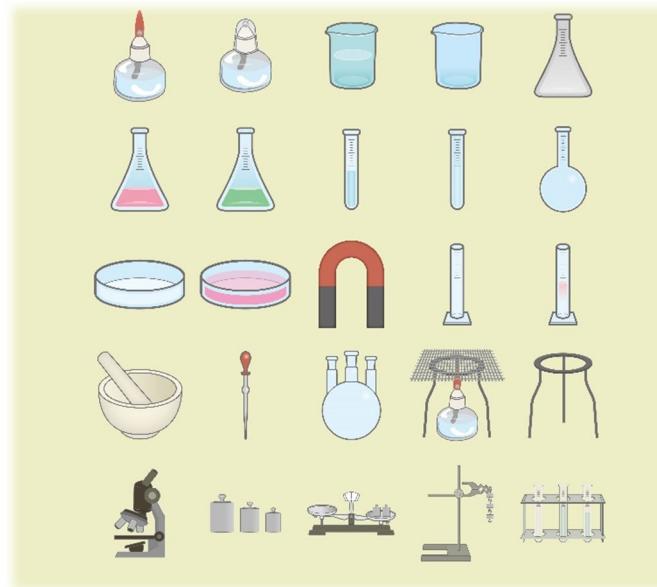


飛行機雲ができる理由は次のとおりです。飛行機が出すはいきガスには、たくさんの水が入っています。水とは言っても、私たちがコップに入れて飲む水ではありません。コップの水を飲もうとしたときに、水がこぼれて服がぬれてしまうことがあります。服にしみこんだ水は、いつの間にか空気の中に飛んでいってしまい、服がかわきます。はいきガスの中の水とは、ぬれた服から空気の中に飛んでいくのと同じ「目に見えない水」(=水蒸気)です。

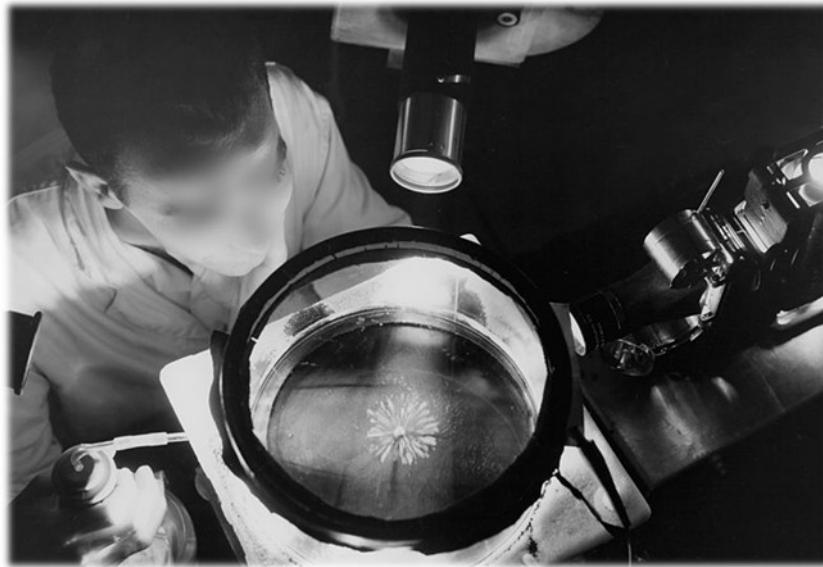


飛行機は、とっても寒い空の中を飛んでいるので、この「目に見えない水」(=水蒸気)が、飛行機の外に出ると、すぐに「目に見える水」に変わります。ちょうど、夏に、空気の中の「目に見えない水」(=水蒸気)が冷たい缶(かん)ジュースの外側で「目に見える水」に変わり、水のつぶになると、同じです。この「目に見える水」の小さいつぶがたくさんできると、白い雲ができます。こうして、飛行機がとおるところだけに白い雲ができます。

並べ替えクイズ



私たちは小学校の理科の時間に「飛行機は空高く、寒い所を飛んでいる」「はいきガスには、目に見えない水(=水蒸気)が入っている」ことを勉強します。この理科の知識が、私たちの「目」となって、本当は見えなかつた飛行機が見えるようになります。理科の知識の「目」は、大学の先生たちが研究をするとき、とても大事になります。私たちのまわりの机やえんぴつや、私たちの体は全部、原子という小さなつぶでできています。その原子は、もっと小さなつぶでできています。これらのつぶを私たちは見ることができません。

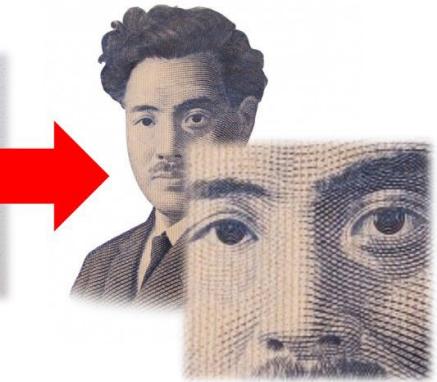


今から120年くらい前、これらのつぶを見るための機械が発明されました。箱の中に、見えない水(=水蒸気)を入れておくと、小さなつぶがその中を走ったときに、雲ができることが分かりました。上の写真を見てください。ポロニウムという金属から、アルファ粒子(りゅうし)という小さなつぶがいろんな方向に飛んでいくのが見えます。くりかえしますが、つぶが飛んでいくように見えるのは、理科の知識という「目」を私たちが持っているからです。



いや、もしかしたら、私たちは、理科以外、たとえば社会科の知識の「目」も持っているのかもしれません。私たちは、お正月に千円のお年玉をもらつて、大喜びするとき、「このお年玉ぶくろの中にお金が入っている」と思っています。しかし、実際にあるのは「1000」という数字と野口英世(のぐちひでよ)の顔の絵がかかれた、ただの紙切れです。それでも「この中にお金がある」と思えるのは、「お店に行けば、この紙切れを素敵なおもちゃや、おいしいお菓子(おかし)とこうかんしてくれる」という知識の「目」を、私たちが持っているからです。

並べ替えクイズ



もしそうだとすると、使う知識がちがえば、ひとつのものをいろいろな方法で見ることができます。だから、私たちが知識を使って、なにかが「見えた」と思ったとき、「その見方だけが正しい」と考えないほうがよいです。千円札を見て、おもちゃ屋さんに並ぶプラレールやリカちゃん人形が頭にうかんだとしたら、それは千円札を正しく見たことになります。また、同じ千円札を見て、「どうやったら、こんなに細い線を並べて、人の顔をえがくことができるのだろう」と考えるのも、正しいことなのです。

正解のないクイズ

千円札は、おもちゃと交換できる券であると見ることもできるし、人の顔の絵がじょうずに描かれている紙であると見ることもできます。このように、二つの見方ができる物の例を、千円札以外に一つ、考えてください。

もしできれば、考えた結果をえんぴつで紙に書いてみましょう。

**本紙芝居は、以下の文献に示されたアイデアを、
幼児や子ども達向けにかみ砕いて制作したものです。**

**野家啓一 『歴史を哲学する－7日間の集中講義』
岩波現代文庫 2016年
(東京大学2018年入学試験問題・国語出題文)**

**※本作品は上記の文献の主張を敷衍して制作したため、
本作品の主張の全てが上記の文献に含まれているわけではありません。**